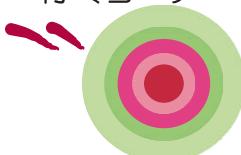


!!! 今月の SpotLIGHT

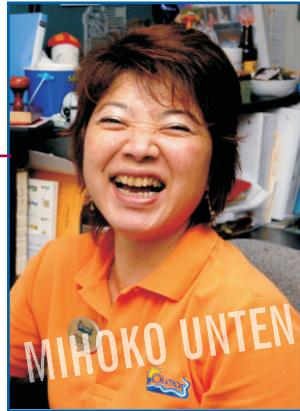
嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。今月はこの方です。



サーフサイド・クラブマネージャー（オクマ）

うんてん みほこ

運天 美穂子さん



(写真全文て、嘉手納基地広報局写真部：金城順子撮影)

Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

米軍人 軍属のための福利厚生施設オクマ（所在：国頭村）にあるクラブ「サーフサイド」でマネージャーをしています。24年間このクラブで働いています。ウェイトレスで7年間、その後クラブマネージャーとして勤めています。クラブにはレストランやラウンジ等がありますが、全ての運営管理、会計、財務、たな卸し、イベント企画を担当しています。クラブで働く従業員は全員日本人で、シェフ8名とバーテンダー2名を含む23名の日本人従業員がこのクラブで働いています。4月～9月の夏場は利用者が増えるため、派遣従業員を雇い全体で35名ほどの人員で業務を行っています。日本人従業員のほとんどが地元の国頭村や名護市近辺に在住しています。オクマ全体で、軍人 軍属は10名ほど、日本人はゲートガードやライフガード等を含め約80名が働いています。

Q2. このクラブやオクマの特徴は？

各月でシェフが交代で担当し、月に一度（金・土）オリジナルメニューを構成し「グルメディナー」を提供するところです。普段は提供していないメニューを味わうことができます。また、このオクマ施設が主体となって企画するイベントがあります。例えば、ゴールデンウイーク中に行なったオクマビーチカーニバルでは施設を一般開放し、米軍関係者だけでなく地元の方々や観光客の方も含め、全体で4000名ぐらいの方がイベントに参加しました。他の米軍施設とは違い、リゾート感覚を持つ保養 娯楽施設なので、ピリピリしたところはなくリラックスした雰囲気を感じることができます。

Q3. どのようなところにやりがいを感じますか？

クラブはサービス業なので、お客様から感謝の言葉を頂く時がやはり一番嬉しく、やりがいを感じます。もちろんフレームもあります。マネージャーは苦情処理係といつても過言ではありません。クラブマネージャーになった当初、お客様がオクマに宿泊しなくともドライブがてらに「食事だけでも来てくれるクラブ」を目標にスタッフと色々な案や企画を立てながら働いてきました。これまで24年間ずっとここで働く事ができたのも、常に積極的に頑張ってくれる素晴らしいスタッフに恵まれてきたからこそ、今まで運営ができたと思っています。いつもスタッフには厳しい言葉ばかり言っていますが、私の方がスタッフ達にこれまでずっと育てられてきました。チームワークのある彼らと良い仕事ができるという所も改めてやりがいを感じます。

Q4. この仕事の課題や困難なところは？

食品や物品の流通に手間が掛かります。業務用調理機器などが故障し修理する際は、部品の取り寄せや機材の確保にしてもすべて米国製のため、すぐには取り寄せられないところです。利用している食材は主に米国産ですが、沖縄や日本の食材も取り入れて調理します。その場合、米軍の食品衛生管理のため許可(検疫)を受けた食品や食材だけが使用できます。今では色々な食材や食品が利用できるようになりましたが、新しい物を取り入れる時には一品づつ許可を取ることを考えると、やはり手間がかかります。

Q5. 米軍基地の仕事で一番驚いたところは？

2001年の同時テロが起きた際、オクマは1ヶ月間閉鎖されました。その間は売り上げもかなり落ち、保養施設とはいえ米軍施設なので当然ではありますが利潤よりも軍の運用を優先させることが第一で、警備もとても強化されたことに驚きました。

Q6. 職場の外での活動があるとききましたが…

毎年オクマではハロウィーンビレッジと呼んでいるイベントを行っています。オクマ施設内にコテージがたくさんあります。コテージ一棟毎に従業員の担当を決めて（例えばホテル従業員はAコテージ、クラブ従業員はBコテージというように）あ化け屋敷を作り、ホテル宿泊者だけでなく地元の子供達を招待し一緒にハロウィーンを楽しんでいます。シェフやウェイトレス達が実際にあ化けに仮装しているんですよ。クリスマスには近隣の保育園を訪ね、オクマの従業員がサンタとなってクリスマスパーティに参加し交流を持っています。これらはクラブ独自のものではなくオクマ全体で取り組んでおり、司令官の許可を受けて行っています。また、地元の方々が施設内のビーチで伝統行事であるハマウリ（「浜下り」とよばれる潮干狩りの日）を行えるように、許可を取って調整しています。その際は私が地元の方々と連絡を取って調整しています。

Q7. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

英語は勿論必須ですが、それにプラスαされるもの、例えばホテル業務経験やサービス関連の免許を持っていると良いでしょう。レストラン業とはいえ、エンターテイメント企画をしたり、新しいメニューを構成したりと様々な事を要求されます。リサーチ力も必要です。何よりもやる気があることが大切です。苦情処理もありますし、売り上げを出さなければならないプレッシャーもありますが、それをやる気に変えて楽しんで業務をこなす事が大切だと思います。

(写真全て、米空軍レイ・ラモニー等軍曹撮影)



今年の初め、HOPEという地域清掃ボランティアプログラムが嘉手納基地で開始されたのを皆さんご存知でしたか？ 5月号のスコシ カデナでもその活動の一部を取り上げましたが、今月はもう少しHOPEとその活動内容について詳しく説明します。HOPEは”Heroes of Planet Earth”の頭文字を取ったもので和訳すると“地球のヒーロー達”という風になります。かつこいいネーミングですね。第18部隊支援中隊のアウトドア・レクレーションセンター事務所によって運営されているこのプログラムでは、基地外にある公共の場所をきれいにし、美しい島あきなわ、そしてかけがえのないきれいな地球環境を次の世代に伝えていこうという目的を掲げ活動が行われています。

最初の清掃作業は今年の2月に嘉手納マリーナ周辺にて行われ、88人の米軍関係者がボランティアとして参加し、約900Kgのコンクリートくず、約230Kgの金属くず、18本の廃タイヤが回収されました。3月に行われた知花ゴルフコース駐車場や周辺道路での清掃活動では、52人のボランティアが約2500Kgのごみを回収しました。読谷の渡久地ビーチでの清掃活動も大成功、なんと200人のボランティアが集まり約1140Kgのごみや枝くずを回収しました。去る6月6日には70人のボランティアが、嘉手納基地のゲート3からゲート1（県道74号線から国道58号線）のフェンス外側を清掃し、約450Kgのごみを回収しています。

ボランティアの中にはHOPEプログラムを地元への感謝を表すいい機会としてとらえている空軍兵士もいます。

“HOPE” = “希望”という意味も持つこのプログラムは地元の地域社会に密着したボランティア活動を行い、地球環境保全の一端を担う良い機会となっています。未来への希望をつなげていくためにも、HOPEの今後の活動が楽しみですね。

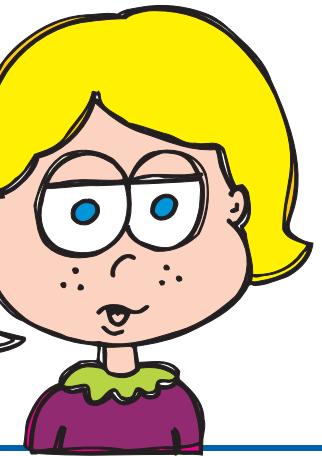


サマー・ハイヤー・プログラム
Summer Hire Programって何？



SUMMER HIRE

サマー
ハイヤー
です。



第18航空団広報局

米軍施設の学校では、夏休みが6月中旬より始まっており、現在、小中高校生は夏休み真っ最中です。嘉手納基地ではサマー・ハイヤー・プログラム、言うなれば「夏季限定雇用プログラム」というものがあります。つまり、夏休み限定アルバイトです。今年は6月22日から8月14日までの夏休み期間に実施されています。

このプログラムでは14歳から22歳までの学生あるいは配偶者が、夏季限定で基地内の様々な事務所で働く機会を得ることができます。地位協定で沖縄に配属された米軍人または軍属の家族、そして米国国籍を取得している人のみを対象としているプログラムです。主に中高生の応募が多く、希望者は申請書と一緒に、希望職種として第1希望と第2希望を必要書類に記載し、同プログラムの人事担当へ提出します。今年は157のポジションがこのプログラムに用意されました。その数を上回る220名以上の希望者がいたため抽選を行い、その後、人事担当からの職場に採用されたか通知されました。

夏季限定従業員（サマー・ハイヤー）は受付で接客をしたり、パソコンで文書を作成したりとフルタイム従業員と同じ仕事をすることができますが、安全面を考慮して動力機械装置などを扱ったりすることは省かれています。もちろんお給料も支給され、サマー・ハイヤーは時給5ドル20セントで週20時間のパートタイムとして働きます。給料日は月に2回、2週間分のお給料を受け取ります。中高生にとっては夏休みのお小遣い稼ぎのチャンスということもあります、職業訓練の第一歩とも言えるでしょう。

中高生や若年層を対象としているため、初めて仕事をする人も多く、採用された人は働き始めると前にこのプログラムの説明会を受ける必要があります。安全局、法務局、雇用機会均等事務所、人事部より、それぞれの担当者が説明会で各分野のブリーフィングを行います。質疑応答では積極的に質問をする高校生の様子も見られます。その説明会では、勤務中の安全管理、人種差別やセクハラ防止について、事務所所有物の私的利用の不可、同プログラムの規律、給料支払いについて等、各種の情報や注意事項を説明されます。説明会の最後には、全員でこのプログラムに参加するにあたり宣誓も行います。説明会でサマー・ハイヤーは仕事に対する心構えを実感したことでしょう。

同プログラムは、様々な部隊や職場がサマー・ハイヤーを受け入れ、単なるバイト生という感覚ではなく、基地全体で青少年の社会的育成も兼ねて取り組んでいるという利点、さらに長い夏休み期間中に子供がこのプログラムに参加することで、親達は安心して自分の仕事に専念できるという利点もあります。夏休みの宿題が全くない中高生にとっては、自由に夏を満喫することができますが、サマー・ハイヤーとして大人と一緒に働き、色々な経験を重ねることのできる貴重な期間になるのではないでしょうか。



SUMMER HIRE PROGRAM SUMMER HIRE PROGRAM